
多面的機能支払 メールマガジン

「農村ふるさと保全通信」第79号(2020.1.14)

農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力!

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第79号をお届けします。

今回の活動組織紹介では、地域資源を活かしたふるさとづくりに取り組む組織と、希少種の保護や生態系保全活動に力を入れて取り組んでいる組織を紹介します。

事務局からは、活動組織の代表者インタビュー、全国研究会の講演内容、PR動画・VR動画公開情報について紹介します。

--- 第79号の目次 -----

1. 活動組織の紹介

☆ なかあらい大地を育む会活動組織 (福島県 ^{みなみあいづ}南会津町) ☆

☆ ^{いかりいし}碓石地区活動組織 (熊本県 ^{あまくさ}天草市) ☆

2. 活動組織の代表者インタビュー

☆ ^{たに}谷農地・水委員会 (島根県 ^{いいなん}飯南町) ☆

3. 「令和元年度 多面的機能支払交付金全国研究会」の概要報告!

～ 第3部 事例発表「女性役員の活躍による活動の広がり」～

4. 「日本の農村は世界一!」PR動画を作成しました!

5. VR動画「田んぼの生き物探検」のご紹介!

(編集後記)

■ 1. 活動組織の活動紹介(1)

～なかあらい大地を育む会活動組織(福島県^{みなみあいづ}南会津町)～ ■

～地区概要～

福島県会津地方の南部に位置する南会津町中央部の農村地域を拠点に活動。

活動範囲は、田 30ha、畑 72ha。対象施設は、水路 17km、農道 40km。

～主な取組～

- ◎ 本地域では、少子高齢化が進んだことによる農業後継者の減少で農地の維持管理が難しくなっていました。このような地域の実態を踏まえ、【^{なかあらい}中荒井に生まれてきてよかった!】と感じてもらふるさとづくりを目指し、平成 25 年度に活動組織を設立しました。
- ◎ 農村環境の保全活動の一環として耕作放棄地へ「ザル菊」を植栽しています。色彩豊かな「ザル菊」が地域の話題となり、鑑賞する方々が連日訪れるようになりました。
- ◎ また、本地域ではニホンジカによる鳥獣被害が多くありましたが、組織において電気柵を活用した被害軽減策を講じることで、一度諦めた生産者が再び農作物の栽培に取り組むようになりました。
- ◎ さらに、これからの地域づくりにおいて、地域内だけでなく地域外からも多角的な知識や専門技術を活用するため、大学生や NPO 法人との交流・連携を図っています。
- ◎ 今後も、「世界に一つしかない」当地区の地域資源を活かしながら、活動を継続していきます。



「ザル菊」の植栽



鳥獣害対策の取組



研修風景

【なかあらい大地を育む会活動組織 代表 渡部 雅俊】

■ 1. 活動組織の活動紹介(2)

～^{いかりいし}碓石地区活動組織(熊本県^{あまくさ}天草市)～ ■

～地区概要～

熊本県南西部に位置する^{あまくさしもしま}天草下島の中山間農業地域を拠点に活動。

活動範囲は田 29.5ha、畑 1.4ha、水路 8km、農道 5km、ため池 7ヶ所。

～主な取組～

- ◎本組織では、草刈り等による地域資源の基礎的保全活動とともに、希少種の保全に力を入れて取り組んでいます。
- ◎基礎的な活動では、農業用施設周りの草刈りや農道の適正管理のほか、農業者の高齢化に伴う荒廃農地の面積拡大防止のために保全管理した農地の担い手への貸出などに取り組んでいます。
- ◎また、組織で管理する水路において、環境省のレッドリスト絶滅危惧2類に位置付けられる「カスミサンショウウオ」の生息がわかったことがきっかけとなり、生態系保全の取組にも力を入れています。カスミサンショウウオは、山際の環境保全型開水路(用水路)に産卵しており、産み付けられた卵は、泥上げの際に土砂と一緒に引き上げられるため、本組織で大切に保護し、ふ化させています。
- ◎毎年4月には子供会と一緒に、環境保全型開水路周辺のピオトープづくりを行っており、これと併せて、カスミサンショウウオの幼生の放流や水質保全を目的とした^{すみかご}炭籠の作成、設置にも取り組んでいます。
- ◎今後は、都市部との交流として、炭籠作成の間接的な作業である薪割りや炭焼きを民泊や修学旅行で体験してもらうほか、幅広く情報発信を行うことで、農山村地域の有する多面的機能について更なる理解促進を図りたいです。



子ども会による希少種の放流



カスミサンショウウオの幼生



炭籠作成の様子

■2. 活動組織の代表者インタビュー

～谷^{たに}農地・水委員会(島根県 飯南^{いひなん}町)～■

組織の概要

島根県飯南町の南西部に位置する谷地区（6集落）を拠点に活動。活動範囲は、田 39.2ha、畑 1.6ha。対象施設は、水路 20km、農道 10km。平成 19 年度の農地・水・環境保全向上対策の制度開始以前から活動に取り組んでいる。

～インタビュー～

Q：組織を設立した経緯についてお聞かせください。

A：本組織は、平成 19 年度の農地・水・環境保全向上対策が実施される前、平成 18 年度の試験運用時から活動を行っています。

本地区では昭和 50 年代から地域住民による谷振興会という組織があり、水道や農道といったライフラインに関わる地域内の生活上の困りごとなどについて、県や町へ要望していましたが、町村合併を機に平成 16 年度に谷自治振興会に移行設立されました。農地・水・環境保全向上対策が実施されるころは、ちょうど近隣一帯で本地区の農業を将来どうしていくかを話し始めたときであったため、谷自治振興会が中心となり組織を設立しました。



委員長 ^{さわだ} ^{さだなり} 澤田 定成氏

Q：本組織では、農村環境保全活動として景観の保全活動に力を入れられていますが、そのきっかけは何でしょうか。

A：活動を取り組み始めたばかりの頃は、農地や施設の維持管理をテーマとして活動をしてきましたが、次第に、谷地区として特色のある活動をやろうと思うようになりました。私が発起人となり景観の保全活動の実施を提案し、皆さんから賛同していただきました。

Q：今年度から実施している「草刈りデー」という活動についてお聞かせください。

A：「草刈りデー」は景観の保全だけでなく、草刈りを通して参加者に谷地区そのものに関心を持ってもらうことを目的として開催しています。会社に勤めている人は、平日や日中は不在となり土日しか参加できない

ため、平日の草刈りへの参加人数はどうしても少なくなります。そこで、月に1回、第2土・日を「草刈りデー」として定め、皆で一斉に地区内の草刈りを行っています。



「草刈りデー」では、地区内だけでなく地区外に住んでいる人も参加しています。普段地区内に住んでいなくても、実家等が地区内にあれば活動を機会に集落に帰ってきてくれ、草刈り作業の戦力として、とても助かっています。

草刈りデーの様子

(のぼりを各集落に5本ずつ設置)

また、去年の夏は、草刈り作業中の熱中症対策として配るペットボトル飲料を持ち歩くためにカラビナのボトルホルダーを作り、草刈りの参加者に配りました。



ボトルホルダー

Q：活動を行ってよかったことはありますか。

A： 本活動で施設の整備ができたことによって、耕作放棄地になりそうな土地でも、次の担い手の方につなげることができました。水路が壊れて水が農地まで流れなくなったら農業ができないので、農地の荒廃抑止に直接的な効果はあったと思っています。また、地域でやってみたいと思う活動に取り組みやすく、いろいろな活動のきっかけにもなっています。

Q：今後の活動や目標についてお聞かせください。

(組織の事務担当者より)

A： まずは、活動の継続が大事だと思っています。高齢化や人口減少に向かっているなので、それを緩やかにしていければと思います。本地区では60～70代が中心となっており、地域資源をどのように次世代につなげていくかが課題です。地域共同で行うような、こまめな作業を次世代へ継承していくことは、中々難しいものがあります。いかに後世に引き継いでいくかが課題だと思っています。

(組織の代表者より)

A： 多面の活動をスムーズに継承していくためには、若い世代が関わられるような新しい活動が必要だと考えているところです。地域で世代間の交流の機会を持てることが田舎の良さだと思っています。多面の活動もその一端を担っていますし、次世代へ継承していきたいと思っています。

■3.「令和元年度 多面的機能支払交付金全国研究会」の概要報告！ ～第3部 事例発表「女性役員の活躍による活動の広がり」～■

先号に引き続き多面的機能支払交付金全国研究会の発表内容をご紹介します。今回は、^{おいらせがわ}奥入瀬川沿岸地域保全広域協定（青森県 ^{とわだ}十和田市）の ^{ふくだ}福田氏による講演「女性役員の活躍による活動の広がり」についてご紹介します。

発表では、地区の概要や活動内容、広域協定を結ぶまでの経緯のほか、女性構成員の通称「なでしこ隊」による活動について紹介されました。組織を広域化する際に地域の高齢化や担い手不足を踏まえ、活動参加者の確保のために女性役員が中心となって地域内の女性への声かけを行いました。始めは女性の活動参加が少なかったですが、「町内会」や「湯っこの会」等の集まりでの積極的な声かけや、一軒一軒手渡しでの作業通知書の配布等を通じた粘り強い声かけにより、徐々に参加者が増加していきました。また、お昼前や夕方に食事の支度をする女性も集会に参加しやすくなるよう意見交換会等を日中に開催する、米農家だけでなく野菜農家も参加しやすくなるよう作業時間を午前7時から午前11時までの半日とするといった工夫を行っています。その結果、本組織の女性構成員が草刈りや泥上げ作業にも積極的に参加しているだけでなく、女性が行うイメージの少ない重機（バックホウ等）の免許取得も目指しています。

発表の最後には、今後の展開として、若い人への声かけ、なでしこ隊を主体とした活動や子ども達が参加できるような活動に対する積極的な取組などが挙げられました。



福田氏による発表



なでしこ隊による活動の様子

▽全国研究会のHPこちら▽

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamenn_kennkyukai19.html

■4.「日本の農村は世界一！」PR 動画を作成しました！■

この度、多面的機能支払交付金を通じた農村環境を守っていくための活動を紹介する PR 動画を作成しました。この動画は、YouTube の MAFF チャンネルやさいたま新都心駅の改札付近の電光掲示板にて発信しています。15 秒という短い時間ですが、多くの方に農村の魅力や、農村を守るための活動について知っていただければと思い、作成しました。

また、BGM には若者に人気の「打首獄門同好会」の楽曲を使用しております。「日本の米は世界一！」という印象に残る出だしから始まり、活動組織の活動の様子を写真や詩で紹介しています。

本動画は YouTube で 1 月 10 日～3 月 31 日、電光掲示板で 3 月 4 日～3 月 31 日までの期間限定配信となっています。以下の URL にアクセスしていただき、ぜひご覧ください！



▽ MAFF チャンネル ▽

<https://www.youtube.com/watch?v=54O0PsMqJlM>

▽ 打首獄門同好会公式 HP ▽

<http://uchikubi.com/pc/>

【農林水産省 多面的機能支払推進室】

■5. VR 動画「田んぼの生き物探検」のご紹介！■

農林水産省の「農業・農村 VR 体験コンテンツ」の HP に、多面的機能支払推進室が作成した「【VR ツアー】田んぼの生きもの調査隊！！田んぼゾーン、水路ゾーン」、「【VR 動画】田んぼの生きもの探検～かだめし編～」の3つの VR 動画が公開されています。

どの動画も、生きもの調査の様子を撮影・編集したもので、VR 用のゴーグルがなくても、マウス等で操作し 360° 動画として生きもの調査を疑似体験しながら、迫力いっぱいの生きものをご覧いただけます。これらの動画は、子ども達に田んぼの周りに住む生きもの多様性や、それを守るための農地や水路等の地域資源の大切さを伝える目的で作成しました。

これまでのメルマガでもご紹介している「子ども霞ヶ関デー」や「コープみらいフェスタ」などのイベントにおいても多くの方に体験いただいています。そのほか、様々なイベントでご活用頂ければ幸いです。イベント等での利用を希望される方は、以下の問合せ先までご連絡ください。



▽農業・農村 VR 体験コンテンツ HP▽

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/vr.html>

▽VR の利用を希望される方▽

農林水産省 農村振興局 整備部 農地資源課 多面的機能支払推進室

代表：03-3502-8111（内線 5493）

ダイヤルイン：03-6744-2197

【農林水産省 多面的機能支払推進室】

■編集後記■

皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。年明け早々、私の家族がインフルエンザにかかってしまいました。寒い日が続きますので、皆さまも体調管理には十分お気をつけください。

さて、私は年末実家のある石川県に帰省しておりました。中学や高校の同級生と会ってお互いの近況報告などをし、仕事やプライベートの話で盛り上がりました。大学や就職をきっかけにばらばらになってもこうして地元の友人と会えることはとても幸せなことで、これからもたまに地元に戻り、みんなと会って他愛のない話に花を咲かせていきたいです。

◇バックナンバー◇

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html



バックナンバーはこちらからもご覧いただけます！→

◇令和元年度多面的機能支払交付金のあらまし◇

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html

◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。
どんどんご活用ください！！



高めよう 地域協働の力！

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/H29/pdf/logo.docx

◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから！

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）等に関するメールをお待ちしております！！

tamen_ml@maff.go.jp

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：藤田、新谷）

TEL：03-3502-8111（内線5493）
